第29回企画展

# 古代の多賀城と国司館

2018年

**10月6日（土）**

**▶12月24日（月・祝）**

多賀城市埋蔵文化財調査センター展示室〔多賀城市文化センター内〕

第29回企画展

# 古代の多賀城と国司館

山王遺跡千刈田地区で発見した古代の邸宅跡は、主殿の格と規模、出土文字資料の検討から、10世紀前葉の陸奥守の官舎である「国守館（くにのかみのたち）」と推測されました。「国守館」の発見は、全国で初めてのものであり、敷地の規模や立地、国庁との位置関係を明らかにした点で、古代史上貴重な成果を提示するものとなりました。

今回の展示は、「国守館」の調査成果を中心に、古代の多賀城とその周辺で発見された国司館について紹介し、改めて国府が置かれた多賀城との関係を考えるものです。

**方格地割と国司館**

古代陸奥国は、現在の福島・宮城・岩手南部を領域とする大国であり、その中心である陸奥国府は多賀城に置かれました。９世紀前葉頃になると、多賀城南面におよそ一町四方の方格地割が施行されます。役人・庶民が暮らすこのまち並みの幹線道路沿いには、上級官人である国司館（こくしのたち）が営まれました。

**四面廂付建物**

国守館の主殿は、四面に廂を付けた格の高い和風建築であり、多賀城政庁正殿に匹敵する大規模なものです。

**題箋軸木簡**

「右大臣殿餞馬収文（うだいじんどのせんばしゅうもん）」と書かれています。題箋（見出し）付きの巻物の軸で、陸奥国の馬を都の右大臣に贈答した際の一連の文書を保管するために用いられました。後に慣例化する陸奥国の貢馬の先駆けとなる事例です。

**一括で埋納された土器**

主殿の南西部に接して265点以上の土器の食器と青磁の水注等が埋納されていました。宴会または儀式に用いられたと考えられています。主殿の建設に関わる可能性があります。

**井戸**

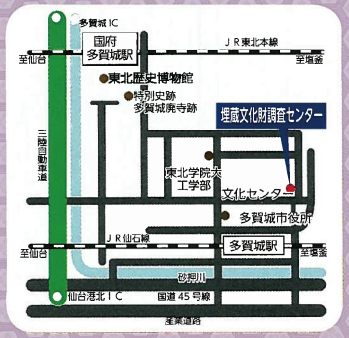
主殿の南西約10ｍの地点には、大型の井戸が設けられていました。井戸側はヒノキの刳り抜き材を組み合わせた格の高いもので、廃棄する際には井戸終いの祭祀が行われていました。

**青磁水注**

古代日本では磁器の生産は行われておらず、中国からの輸入品が用いられました。これらの貿易陶磁器類は大変貴重なものであり、国守の権力・財力を示しています。

## 多賀城市埋蔵文化財調査センター展示室

開館時間　9：00～16：30
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌日）

〒 985-0873　宮城県多賀城市中央２丁目27-1
☎ 022-368-0134

主催：多賀城市　多賀城市教育委員会